第１４回青森県総合教育会議会議録

１　期　　日　　令和３年５月２１日（金）

２　開　　会　　午後３時

３　閉　　会　　午後３時３５分

４　場　　所　　第三応接室

５　議　　事　　青森県立高等学校教育改革推進計画第２期実施計画策定に向けた対応について

６　出席者等

・出席者の氏名

三村申吾（知事）

和嶋延寿（教育長）、野澤正樹（教育委員）、中沢洋子（教育委員）、杉澤廉晴（教育委員）、平間恵美（教育委員）、戸塚学（教育委員）

・説明のために出席した者の氏名

田中道郎（教育次長）、赤尾芳伸（教育次長）、吉田忠一（教育政策課長）、仁和由紀人（高等学校教育改革推進室長）

７　概　要

会議の開催趣旨説明

（和嶋教育長）

教育委員会では、現在、平成３０年度から令和４年度までを計画期間とする青森県立高等学校教育改革推進計画第１期実施計画に基づき、計画的な学校規模・配置など取組を進めているところである。

今後も社会の急速な変化や更なる中学校卒業予定者数の減少等が見込まれることから、本県の未来を担う人財を育成する高校教育の推進のため、次期計画となる第２期実施計画を策定する必要があると考える。

第１期実施計画策定時と同様に、知事と計画策定に向けた基本的な方向性について共通理解を図った上で、計画案を示していきたいと考え、会議の開催をお願いしたものである。

資料説明

（仁和高等学校教育改革推進室長）

それでは、第１４回青森県総合教育会議に係る資料に基づき御説明する。

１ページを御覧いただきたい。

「①　高校教育改革の背景」にあるとおり、社会の急速な変化や中学校卒業予定者数の減少等に伴い、今後も高校教育改革が必要な状況である。なお、第２期実施計画期間では、グラフのとおり、約１，０００人の生徒が減少する見込みである。

次に、「②これまでの高校教育改革の取組」及び「③計画の構成」を併せて御覧いただきたい。

有識者で構成する青森県立高等学校将来構想検討会議からの答申を踏まえ、平成３０年度から概ね１０年間の県立高校教育改革に関する基本的な考え方を示す基本方針を策定した上で、平成３０年度から５年間の具体的な学校規模・配置等を示す第１期実施計画を平成２９年度に策定した。現在は第１期実施計画に基づき、計画的な学校配置等の取組を進めているところである。

また、令和５年度から令和９年度までを計画期間とする第２期実施計画の策定に向け、基本方針を昨年度８月に改定するとともに、地区の実情を踏まえた御意見を伺うため地区意見交換会を６地区で開催し、主な意見を提出していただいたところである。現在は地区意見交換会の意見等を参考にしながら、教育委員会内で第２期実施計画を検討しているところである。

次のページを御覧いただきたい。

「④基本方針の概要」であるが、令和２年度に改定した基本方針の概要について、ポイントを絞って御説明する。

「計画策定の考え方」として、３つの観点があり、「充実した教育環境の整備」と「各地域の実情への配慮」の２つの点に留意し、県全体の高校教育の充実に取り組む

こと、「オール青森」の視点により取り組むこと、県民の理解と協力の下で計画を策定することとしている。

また、その下の「重点校・拠点校の配置」であるが、普通科等の教育活動の中核的役割を担う「重点校」や、農業科・工業科・商業科の学習の拠点となる「拠点校」を、第１期実施計画では各６校ずつ配置したところである。

これらの高校は他の高校を支える役割を担い、他の高校と連携した特色ある取組を企画立案・実施しております。例えば、右下の拠点校の事例になるが、グローバルＧＡＰ認証取得のノウハウを有する五所川原農林高校の生徒が柏木農業高校の生徒を支援し、柏木農業高校の認証取得につなげたという成果をあげている。

次のページを御覧いただきたい。

「地域校の配置」であるが、生徒の通学環境に配慮し、募集停止等により高校の通学が困難な地域が新たに生じる場合は、「地域校」として配置することとし、中程にある学級減等の基準に基づき対応することとしている。

第１期実施計画では、６校の地域校を配置したものの、既に４校が募集停止となり、地域校の生徒数の確保が急務となっているため、基本方針を改定し、左下記載のとおり地域校の活性化に向けて、学校と地域等が一体となった検討を促すこととしている。

次に、右側の「全日制課程の学校規模・配置の観点」であるが、「高校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」を観点としている。一定の学校規模を確保するため、学校規模の標準として、１学年当たりの学校規模を、基本となる学校は４学級以上とすることなど設定しているところである。

次のページを御覧いただきたい。

「学校配置の方向性」であるが、全日制課程は中学校卒業予定者数の推移、中学生のニーズ等に対応しながら計画的な学校配置を推進、定時制課程は６地区ごとの配置を基本、通信制課程は東青・中南・三八地区への配置を基本としている。

このほか、その下の「学校・家庭・地域等との連携」や、右側の「教育活動の充実に向けた取組」を進めることとしている。特に、全国からの生徒募集については、導入を検討することとし、基本方針を改定したところである。

次のページを御覧いただきたい。

「⑤地区意見交換会の主な意見」であるが、地区意見交換会は学校教育関係者等で構成しており、様々な観点から御意見をいただいたところである。

その下の「重点校・拠点校・地域校の配置」では、重点校・拠点校の配置の現状維持を求める意見や、枠組みの見直しを求める意見などがあった。

右側の「全日制課程の学校規模・配置」であるが、地区意見交換会では、学校教育関係者などの委員の意見に基づく学校配置シミュレーションを作成し、効果や課題について御意見をいただいた。全ての学校の配置を求める意見や統合を求める意見など、１８例の学校配置の提案があったところである。

次のページを御覧いただきたい。

全ての学校を配置する場合には、中学生の進学先の選択や地域活性化などに関する効果を挙げる意見があった一方で、学校の小規模化による教育環境の質の低下などに

関する課題を挙げる意見があった。

また、学校を統合する場合には、生徒のニーズへの対応などに関する効果を挙げる意見があった一方で、生徒の通学や高校の伝統・特色の消滅などに関する課題を挙げる意見があった。

次に、右上の「定時制課程・通信制課程の配置」であるが、現状維持を求める意見があった。

その下の「全国からの生徒募集」であるが、地区意見交換会では導入に賛成する意見を多くいただいた。また、県外生徒の定員の制限や県外生徒の生活環境への支援の必要性について意見があった。このほか、特色や魅力のある高校への導入や地域校への導入など具体的な導入対象校の提案もあった。

次のページを御覧いただきたい。

これまでの教育委員会の検討を踏まえ、第２期実施計画策定に向けた基本的な方向性として、次の３点を示している。

通学環境など各地域の実情に配慮しつつ、生徒一人一人がこれからの時代に求められる力を身に付けられるよう一定の学校規模を維持することとし、統合等を含む計画的な学校配置を行うこととしたいと考えている。

全国からの生徒募集については、第２期実施計画に盛り込むこととし、県外生徒の定員の制限も視野に入れつつ、導入対象校を限定した上で導入したいと考えている。

第２期実施計画策定までの流れとして、７月頃の計画案の公表、７月から８月頃の地区懇談会の開催やパブリック・コメントの実施を経て、１０月頃の計画決定を目指していきたいと考えている。

協議　青森県立高等学校教育改革推進計画第２期実施計画策定に向けた対応について

（野澤委員）

方向性の確認ということで、全体的な所からお話ししたい。資料の一番最後のページに第２期実施計画策定に向けた基本的な方向性とあるが、地区意見交換会の意見や教育委員との対話の中でも共通して出ている「学校の更なる魅力づくり」が大事であると考えている。

今後も生徒数が減少することは明らかであり、また、令和２年度から私立高校の授業料が実質無償化になるなど、県立高校への入学者数が更に減っていくと当然ながら想定される。県立高校の生徒数の減少が更に見込まれる中、県立高校は一定の充実した教育環境をつくっていく責務がある。同時に、普通高校、専門高校を問わず各校が知恵を絞って、更なる特色づくり・魅力づくりに努め、私立高校といい意味で競争し、お互いに魅力を高め合っていくことが必要と考える。

昔は「スクールカラー」という言葉が漠然とあったが、今では、中教審の専門部会等の中で各々の学校の役割を明確に示す「スクール・ミッション」という学校の使命や、学校の教育活動の指針となる「スクール・ポリシー」という学校方針を明確に出し、各校の特色をより鮮明に示すことが求められている。第２期実施計画を進める中

で同時並行的に意識していかなければならない大きい環境の変化であると思う。
　これらの劇的な変化を再認識した上で、各校長の強力なリーダーシップの下、先生・生徒が一緒になり我が学校がどのような学校であるべきか、地域の方々の協力も得ながら、一丸となって「高校の特色化・魅力化」を検討することが大事であり、全県挙げてやらなければならない重要なことである。
　また、基本方針では、地域校の活性化や全国からの生徒募集について、地域一丸での学校の特色づくりとあるが、ここでも各学校の魅力づくりが求められると思うので、念頭に置いて第２期実施計画を図っていきたいと考えている。

（知事）
　御意見しっかりと受け止めた。

（中沢委員）
　先日の三本木農業恵拓高校の開校式典に知事も出席していただき、生徒も大変嬉しかったようである。歴史に残る式典になったと思う。桜田マコトさん作詞作曲の拓創、弾き語りなどのサプライズもあり非常に感動した。
　その後の入学式にも出席したが、壇上の代表の生徒の宣誓に対し、予定にはなかったが、校長が「共にがんばろう」と声掛けをすると、生徒も「はい」と返事をし、これから一緒に未来を築いていこうというとても感動的な場面になった。生徒の臨機応変な対応にも感動したが、校長先生の心からの言葉もまた未来に向かう子どもたちにはとても大切な教育環境の一つになると思った。
　第１期実施計画では、重点校６校と拠点校６校を配置し、それぞれの高校が各学科の教育活動の中核的な役割を担っている。今回の資料にもあるとおり、他の高校と行き来し連携しながら様々な取組を進め、成果を挙げていることはオール青森を感じさせる魅力的な環境だと思う。
　そのためにも、一定の学校規模のもとで生徒たちが協働し、様々な個性や価値観に触れ、それぞれの進路志望を達成できる環境が必要であると考えている。
　青森の地で育ち、変化の激しいこれからの時代を生きていく子どもたち一人一人に社会で生きていく力を身に付けられるよう、高校間の連携した取組については、これまで以上に幅広い連携を進め、積極的に県外、全国、世界へ展開していくことも必要がある。未来に向かって夢や希望を持てる柔軟な教育環境がなければならないと心から思う。
　また、定時制課程・通信制課程についてであるが、発達障害等も含め配慮が必要な多様な子どもたちを、小学校、中学校から高校へと一人も取り残さない学びのセーフティネットの役割として青森県内６地区に配置し、更に充実した教育環境を整備していくことが必要と考えている。そして、全日制高校、定時制高校、通信制高校の区別なく、全ての高校で学校・地域・家庭が連携し合い、その高校の魅力を創出し、それを「見える化」し、外からも見えるようにしていくことがこれからは重要だと考えている。
　青森県が未来の子どもたちに誇れる社会を残すためにも、豊かな教育現場を目指し

ていかなければならないと強く思う。

（知事）
　一定の学校規模、学びのセーフティネットなど考えさせられる御意見である。

（杉澤委員）
　地域の実情への配慮、全国からの生徒募集についてお話しさせていただく。
　地区意見交換会からは、全ての学校を配置すべきという意見や、学校の統合に関する意見など様々な地域毎の意見をいただいたところである。それぞれ効果や課題があり、学校配置の検討は本当に難しい問題であると改めて感じている。
　第１期実施計画にも携わったが、第１期計画中には２，１００人の生徒が減少ということで､地域校を考えるべきか統合を考えるべきかは担当する教育委員会のご苦労、検討があり、なによりも生徒のために取り組んできた内容であった。詳細な評価はこれから確認するとしても、将来を見据えた計画であったと思う。
　地区意見交換会の意見の中には、通学に対する課題を指摘するものがあるが、第１期実施計画では、小規模校だからといって機械的に統廃合を進めるのではなく、地域の意見を参考にしながら、地域校を配置したり、１から２学級規模であっても配置した経緯があるため、第２期実施計画においても、通学環境など地域の実情に配慮した高校教育改革の視点が必要であると思う。
　また、地域校６校中４校が募集停止になってしまったことで、将来入る段階で高校がなくなるかもしれないという不安を覚えると思うが、生徒が誇りを持って取り組めるよう配慮していかなければならないと思う。この４校においては、高校も地域も様々な努力をしてきているので、努力を再確認し、次に繋げていかなければならないと思う。
　そして、全国からの生徒募集についてであるが、導入することで、高校の段階から県内生徒が多様な価値観に触れ、コミュニケーション能力の向上や切磋琢磨する気持ちが醸成されるなどの効果が期待できると考えている。
　しかしながら、全国からの生徒募集については、全国の事例を見てもカリスマの先生がいたり、一見成功しているように見えてもご苦労されているプロセスがあるという状況もあるため、ただ単に手っ取り早く生徒数を増やすという視点では立ちゆかないと思う。全国の事例をしっかりレビューして青森らしい取組として取り組んでいかなければならないと思う。
　地区意見交換会においては、地域の子どもたちの学習機会が逆に奪われることを心配する意見があったことを踏まえると、県内の中学生の入試環境への影響を抑えるため、導入対象校をある程度限定することや、県外生徒の定員の制限は必要であると考えている。
　また、県外生徒を受け入れるには、地域の協力が不可欠であり、県教育委員会や学校がそれぞれの地域と連携しながら取組を進めていく必要があると考えている。
　地域が県立高校ということで敷居が高いと思ってしまうことがないように、しっかりとした本質的な教育を行い、また、地域の立場としては地域に高校が有るか無いか

ではなく、高校生が必ずいることから、全国募集のみならず地域エリアで高校生を育てていくという視点で検討を深めることも必要である。

（知事）
　地域への配慮、全国募集していてもある程度限定すること、定員のことなど御意見いただきありがたい。

（平間委員）
　全体像として、子どもたちの夢や希望の実現にどうこの改革が関わるかということを改めてお話しさせていただきたい。
　地区意見交換会では、出来るだけ委員の皆様の忌憚のない御意見をいただけるようお願いしていたところである。学校規模・配置、これからの生徒募集などに対し、今の短いスパンで変わっていく社会情勢の中、それぞれの地域の実情等を踏まえながら、それぞれの立場から幅広い御意見をいただけたと思う。
　私自身も過去にワーキングチームの委員として参加しており、熱い皆様の意見を思い出した。その一つ一つに、ワーキングチームに入った委員の皆様の後ろには県民それぞれの地域の皆様の言葉が更に深くあるということ、青森県の子どもたちが夢や希望を持って学んでほしいという強い皆様の思いが込められていたと改めて感じている。
　高校教育改革は地域の子どもたちの将来に本当に深く関わるものだと思う。同時に、子どもたちがこれからどう生きていくかという選択に関わることだと思う。今回のコロナ禍、目まぐるしく変わる社会の中で、一人の子どもたちも取り残すことなく、個々の進路選択や興味・関心に応じた教育環境で学べることがとても重要であり、私たちはその場を確実に提供できるか、子どもたちの学びの権利をどう守っていけるかが、この高校教育改革にかかっているといっても過言ではないと思う。
　私の方にもたくさんの高校生が夢を持ってボランティアにきている。それぞれ夢もあり、生活環境も違い、問題を抱えている子どもたちもたくさんいる。その子どもたちが夢を持ち、この青森で夢が現実のものとなるよう、更には社会の一員となって幸せに生きていくために、高校教育がどうあるべきかという視点を決して忘れることなく、今後も検討を進めていく必要があると思う。

（知事）
　夢が現実となる、あるいは幸せになるためにどうあるべきかといった原点、基本となることについて御意見いただきありがたい。

（戸塚委員）
　今回の改革はいろいろな意味で青森県高校教育のチャンスだと捉えており、チャンスにしたいと考えている。計画策定に関する考え方について広い視野からお話しさせていただきたい。
　第１期実施計画については、取組を粛々と進め十分な成果をあげつつあると感じる。

一方、第２期実施計画の策定に当たっては、国において、中教審答申等に基づき、将来に向けた高校教育の方向性を示したところであり、このような動きを踏まえ、時代を先取りする高校教育の実現のために実施計画の策定が期待される。

私見になるが、第２期実施計画では、生徒により良い教育環境を提供する「県立高校教育全体の最適化（optimaize)」を目的にした「学校規模・配置の適正化」と「学校間及び学校・家庭・地域との実効性のある連携の確立」がポイントとなると考える。子どもたちのニーズや地域の実情に配慮しながら、オール青森の視点に立った高校教育の実現が最重要課題になると考えている。

計画の推進に当たっては、各地区に配置される重点校・拠点校を中心に、その地区内の高校の一体化による「地区Teamでの高校教育の確立」が短期的なゴールと捉え、丁寧かつスピード感をもって取組を進める必要があると考える。これらの貫徹により、「各地区の高校教育の一体化」が、やがて「青森県の高校教育の一体化」のベースになり、そこに地域の力が加わって「オール青森」での高校教育の実現を可能にするという中長期的なロードマップを描けるのではないかと考えている。

実施計画の根本は教育の話であるため、高校教育改革が、子どもたちにとってより「夢のある話」になることが重要であると考えている。「少子化により変化する教育環境への対応」が一つの大きな課題となるが、「対応」が前面に出てくると、新しい時代を切り拓く子どもたちの多様なニーズの受け皿になるだろうかという懸念が払拭できないと考えており、これまで以上に「夢のある高校教育の実現」に向けた議論が必要であると考えている。

この４月に五所川原工科高校と三本木農業恵拓高校が開校し、第１期実施計画の大きな成果であると捉えている。ここまで来るには色々な苦労があったと思うが、開校式では、新入生が前を向いて新しい学校の歴史、新しい時代を切り拓こうと意気揚々としていたと伺っている。

第２期実施計画は、令和５年度から５年間を計画期間としているが、１０年先、２０年先の青森県の高校教育の基礎を築くものとなると思う。全国からの生徒募集も視野にあり、県のテーマである「『選ばれる青森』への挑戦」を高校教育から具現化するためのチャレンジとなることを期待するとともに、微力ではあるが私自身も教育委員としての立場から考えて参る。

（知事）

チャンスにしたいという思い、それから夢のある高校教育の実現のための議論であること、何よりもオール青森という視点で見ていこうという御意見をいただきありがたい。

（知事）

本日は第２期実施計画策定に向けた基本的な方向性について、皆で力を合わせていこうという話ができたと思う。教育委員の皆様から様々な視点で御意見をいただいたが、地区意見交換会で寄せられた意見、第２期実施計画策定に向けて基本的な方向性、それぞれの委員の皆様からも「思いは一つ」であること、未来の高校生のため、そし

て未来の高校生がそれぞれの人生を送っていくためにどういった支えとなっていくか、そういう第２期実施計画であるということについて理解した。

教育委員会から説明があったとおり、基本方針で掲げる「充実した教育環境の整備」と「各地域の実情への配慮」や、オール青森の視点はいずれも大事なものと自分としても考えている。この視点のもとで、未来の青森県づくりに向けて、県全体の高校教育をどうしていくことが望ましいのか考え、高校教育改革を進めていただきたいと考えている。

また、県では若い方々の県内定着・環流促進などに取り組んでいるところであり、全国からの生徒募集については、このような施策の方向性とも合致するものと思う。地区意見交換会から様々な提案があったことを踏まえ、本県の実情に即した導入の在り方について引き続き検討いただきたい。

第２期実施計画の策定に当たっては、説明のあった基本的な方向性を踏まえつつ、県民の皆様の御理解が得られるよう丁寧な対応を心がけ、進めていただきたいと思うし、我々青森県の未来を担う子どもたちのためにどうあるべきかを大切に進めていただきたい。

（教育長）

本日は、第２期実施計画策定に向けた基本的な方向性等について、知事と共通理解を得ることができたことに感謝申し上げる。

今後は、本日の協議を踏まえ、資料で示した基本的な方向性に沿って、本県の未来を担う子どもたちの夢や志の実現のため、より良い教育環境を提供できるよう教育委員会の審議を重ねて参りたいと考えている。

第２期実施計画の決定までには、残り５ヶ月程度の期間を予定している。計画案の公表後は、地区懇談会の開催やパブリック・コメントの実施等を通して、県民の皆様から多くの御意見をいただき、その意見一つ一つを確認しながら、第２期実施計画の策定に向けて検討を進めて参りたいと思う。